

第34回日本緑内障学会 ランチョンセミナー3

日時

2023年9月8日 金 12:20～13:10

会場

第3会場 (虎ノ門ヒルズフォーラム 5F ホールA4)
〒105-6305 東京都港区虎ノ門1-23-3 虎ノ門ヒルズ森タワー 5F

緑内障進行の的確な診断と治療

座長

金沢大学 医学系長／
金沢大学医薬保健研究域医学系 眼科学教室 教授

杉山 和久 先生



現在の高齢化社会において緑内障は中途失明原因の第1位を占めており、その診断・治療・管理を適切に行うことは、QOV、QOL などの生活の質を保持するだけでなく、社会の医療負担の増加を抑制する上で医療経済的にも重要です。そのためには、今回のセミナーのテーマである「緑内障進行の的確な診断と治療」が緑内障診療に求められていると思います。緑内障進行を的確に診断するにはどうしたらいいかを、東出朋巳先生に解説して頂きます。また、緑内障進行の診断がついた時の的確な治療をどうするべきかを井上賢治先生に講演してもらいます。先生方の明日からの診療に役立てていただければ幸いです。

略歴

1984年 金沢大学医学部卒業
1990-92年 米国オレゴン保健科学大学眼科、
デバース眼研究所留学
1996年 岐阜大学眼科講師
2000年 岐阜大学眼科助教授
2002年 金沢大学眼科教授 現在に至る
2020年 金沢大学医学系長(医学部長)
現在に至る

緑内障進行の的確な診断

演者

金沢大学医薬保健研究域医学系眼科学 准教授

東出 朋巳 先生



緑内障進行の的確な治療

演者

医療法人社団済安堂 井上眼科病院 院長

井上 賢治 先生



第34回日本緑内障学会への参加には、参加登録が必要です。
7月31日(月)まで、早期割引を実施しております。
参加登録 <https://n-practice.co.jp/jgs2023/entry/index.html>



ご参加の皆様には、弁当をご用意しております。(数に限りがあります)

共催: 第34回日本緑内障学会 / ヴィアトリス製薬株式会社

XAL93N002A
2023年7月
ヴィアトリス製薬株式会社 作成

緑内障進行の的確な診断と治療

緑内障進行の的確な診断

金沢大学医薬保健研究域医学系眼科学 准教授 **東出 朋巳 先生**

略
歴

1990年	金沢大学医学部 卒業	2006年	金沢大学医学部附属病院眼科 講師
1992年	マイアミ大学	2010年	金沢大学医学部附属病院眼科 病院臨床教授
	バスコムバルマー眼研究所 研究員	2022年	金沢大学医薬保健研究域医学系眼科学 准教授
1996年	金沢大学医学部附属病院眼科 助手		現在に至る

緑内障は成人中途失明の第一原因疾患であり、加齢とともに有病率が増加するので現状では失明リスクは増加の一途です。緑内障は不可逆性の視神経症ですので、QOVとQOLを維持するには早期発見と進行の抑制が必要です。緑内障に対する確実な治療法は眼圧下降治療ですが、目標眼圧の設定と修正は緑内障の進行具合によります。したがって、緑内障の進行を的確に診断することは的確な治療のための大前提です。緑内障進行を判定する材料として視野、眼底写真、OCTなどがあり、判定の手法としてイベント解析とトレンド解析があり、それぞれ長所短所があります。症例に応じて判定手段を使い分けて的確に進行を診断することが求められます。

緑内障進行の的確な治療

医療法人社団済安堂 井上眼科病院 院長 **井上 賢治 先生**

略
歴

1993年	千葉大学医学部 卒業	2006年	医療法人社団済安堂 井上眼科病院 副院長
	東京大学医学部眼科学教室 入局		医療法人社団済安堂 お茶の水・井上眼科クリニック 院長
1998年	東京大学医学部大学院 卒業	2008年	医療法人社団済安堂 理事長
2002年	医療法人社団済安堂 井上眼科病院	2012年	医療法人社団済安堂 井上眼科病院 院長 現在に至る

緑内障進行の判断は難しい場合もあるが、進行した際は治療強化が必要である。緑内障に対する確実な治療法は眼圧下降である。治療強化では、薬剤の変更・追加（配合点眼薬を含む）、レーザー治療や手術を検討し、さらなる眼圧下降を目指す。人生100年時代と言われている近年の長期化する緑内障治療を取り巻く環境として、アドヒアランスの考慮が大切である。アドヒアランス向上の観点から配合点眼薬が開発され、日本では2010年より使用可能となった。また早期からのレーザー治療（SLT）や手術（MIGS）も推奨されつつある。これらの点を踏まえて、今回は緑内障が進行した際の治療強化について解説する。